

I R だより

～ I R（INSTITUTIONAL RESEARCH）の“今”を分かり易くお届け～

第4回医療系大学のための教学 I R セミナー開催決定

本学 I R 室では、文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ1の I R 機能強化の設問における「I R の他大学等への普及に向けた取り組み」の一環として、教学 I R の更なる発展に寄与するために定期的に普及する活動を行うという目的のもと、昨年に引き続き獨協医科大学教学 I R センターと共同で「第4回医療系大学のための教学 I R セミナー」（幹事は大阪医科薬科大学 I R 室）を開催することが決定致しました。

今回は「I R による課題発見のための調査・分析」をテーマとして、第1部はオンライン併用の講演形式、第2部は現地参加型のワークショップ形式で行います。第1部では、医療系学部において学生の読解力が成績や試験にどのような影響を与えているのかを研究報告を基に討論します。第2部では、教育の質保証への学生参加が求められつつあるなかで、I R を通じた学生参加の可能性と課題を医学部の教員と学生のパネリストを交えた座談会形式で議論します。いずれも I R 担当者ならびに教務担当者の具体的な経験や事例を踏まえた内容で、I R による課題発見を通じた教育改善の方法やアイデアを共有することを目指します。

今年は本学が会場となります。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。ご興味のある方は、是非お早めにお申し込みください。

日 時：2024年9月13日（金）15：00～18：00（オンラインは第1部 16:30まで）

開催方法：会場・オンライン（Zoom）

会 場：大阪医科薬科大学本部キャンパス 歴史資料館3階

定 員：会場 先着30名 ※オンラインは70名程度。

対 象：I R および教務・入試担当の教職員 ※医療系大学以外の教職員も参加可。

参 加 費：無料 ※旅費（キャンセル料）等は自己負担。

参加申込：Webフォームを利用した申込みを後日開始予定

【主催】大阪医科薬科大学 I R 室、獨協医科大学教学 I R センター

【お問合せ先】大阪医科薬科大学 I R 室（教学 I R セミナー担当宛）[e-mail:ir-ompu@ompu.ac.jp](mailto:ir-ompu@ompu.ac.jp)

* セミナーの詳細はホームページにて公開致します。

なお、参加申し込み方法等の詳細は、決定次第、グループウェア並びに I R 室ホームページ（下記 URL）にてお知らせ致します。

I R 室ホームページ URL：<https://www.ompu.ac.jp/class/center05.html>



教育年報キックオフミーティング開催



キックオフミーティングの様様

教育年報（2023年度）の制作を始めるにあたり、昨年度の振り返りや留意事項の共有を図るため、去る5月24日（金）午前10時から本館図書館1階会議室 I 及び Zoom にて教育年報キックオフミーティングを開催し、各学部の教育年報事務担当者として I R 室員が参加しました。年内の上梓を目指し、今年も3学部の連携による教育年報の制作が始まります。

ミーティングでは、事務担当者間で原稿の作成要領、編集スケジュール、注意事項等を共有した後、I R 室柝澤副室長と宮崎教授から、昨年度の振り返りと今年度の留意点についての解説と質疑応答が行われました。

日々の議事録の取り方の工夫により内部質保証を担保しようとする取り組みや、制作した教育年報の活用場面の拡大など、前向きな発言と意見交換が続き、予定を大幅に上回る約1時間でミーティングを終えました。

政府「経済財政運営の基本方針（骨太の方針）2024」 が2027年度以降の医学部定員適正化に言及

政府は、令和6年6月21日、「経済財政運営の基本方針（骨太の方針）2024」を閣議決定しました。骨太の方針は、わが国の政策の基本骨格として、毎年度、内閣府「経済財政諮問会議」において取り纏められ、今年度以降の中央省庁の政策実施の進行を定めるものです。

骨太の方針の「3. 主要分野ごとの基本方針と重要課題」
「（1）全世代型社会保障の構築（医療・介護サービスの提供体制等）」において、医師偏在対策に関し「医師の地域間、診療科間、病院・診療所間の偏在の是正を図るため、医師確保計画を深化させるとともに、医師養成過程での地域枠の活用、大学病院からの医師の派遣、総合的な診療能力を有する医師の育成、リカレント教育の実施等の必要な人材を確保するための取組、経済的インセンティブによる偏在是正、医師少数区域等での勤務経験を求める管理者要件の大幅な拡大等の規制的手法を組み合わせた取組の実施など、総合的な対策のパッケージを2024年末までに策定する。あわせて、2026年度の医学部定員の上限については2024年度の医学部定員を超えない範囲で設定するとともに、今後の医師の需給状況を踏まえつつ、2027年度以降の医学部定員の適正化の検討を速やかに行う。」と言及し、今後、厚生労働省及び文部科学省において必要な検討が進められる見込みです。

骨太の方針の取り纏めに先立って、本年5月21日に財務省「財政制度等審議会」が、骨太の方針に向けた建議「我が国の財政運営の進むべき方向」を取り纏め、その中で、「令和12年（2030年）頃には医師の供給過剰になると見込まれている。医師は医学部卒業後40年程度勤務することを踏まえると医師の総数を急激に抑制することはできない。また、過剰な医師数は医療需要の掘り起こしを通じて中長期的な医療費や国民の税・保険料負担を押し上げる要因となりかねない。全体の人口減少に対応した医学部定員の適正化を速やかに行う必要がある。」「昭和45年（1970年）には、18歳の者の約436人に1人が医学部に進学していたが、仮に令和6年（2024年）の医学部定員を維持すると、令和32年（2050年）には約85人に1人が医学部進学することとなる。18歳人口に占める医師養成数の比率をこれまでの水準に戻そうとすると、定員数の大幅な削減が必要となる。今後の医師需給見込みを踏まえ、医学部定員の適正化を速やかに実施していく必要がある。その際、医師の偏在対策についてもあわせて検討していく必要がある。」との記述があり、上記の骨太の方針における言及は、この建議の趣旨に沿ったものです。

なお、同建議において医学部定員の適正化と併せて実施すべきとされた医師の偏在対策については、「診療報酬の仕組みは、報酬点数×1点当たり単価（10円）となっているが、診療所不足地域と診療所過剰地域で異なる1点当たり単価を設定し、報酬面からも診療所過剰地域から診療所不足地域への医療資源のシフトを促すことを検討する必要がある。また、当面の措置として、診療所過剰地域における1点当たり単価（10円）の引下げを先行させ、それによる公費の節減効果を活用して医師不足地域における対策を別途強化することも考えられる。」としており、医師不足の地域に診療報酬を加えるのではなく、医師過剰の地域の診療報酬を単価の引下げにより減らそうとするものであり、この点は骨太の方針には、「経済的インセンティブによる偏在是正」という文言で盛り込まれました。今後の厚生労働省における検討の行方が注目されます。

また、骨太の方針の「3. 主要分野ごとの基本方針と重要課題」
「（3）公教育の再生・研究活動の推進（質の高い公教育の再生）」において、「少子化の進行を見据え、高等教育の機能強化に向け、質・アクセス・規模の在り方について2024年度中に一定の結論を得る」との言及があり、この点に関し、既に中央教育審議会大学分科会に「高等教育の在り方に関する特別部会」が設置され、検討が進められており、その中間まとめ案では、「学生以外の受入れを拡大したとしても、少子化はより速いスピードで進行するとの予測もある中では、高等教育機関の機能強化等の観点からは、設置者の枠を超えた、高等教育機関間の連携、再編・統合・撤退の議論は避けることができない状況にあり、高等教育全体の適正な規模の確保を図ることが必要である。」とされており、大学の連携・再編・統合だけではなく、縮小・解散に向けた指導・支援の必要性についても検討が行われている点にも留意が必要です。

- ・内閣府「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）2024」
<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/honebuto/2024/decision0621.html>
- ・財務省「我が国の財政運営の進むべき方向」
https://www.mof.go.jp/about_mof/councils/fiscal_system_council/sub-of_fiscal_system/report/zaiseia20240521/zaiseia20240521.html
- ・中央教育審議会「高等教育の在り方に関する特別部会」中間まとめ案
https://www.mext.go.jp/content/20240628-koutou02-000036781_2.pdf



学生調査—昨年度のフィードバックと 今年度実施準備の進捗—

今年度（2024年度）の本学学生調査は、文部科学省「全国学生調査（第4回試行実施）」の対象学年について、その設問を本学の調査に埋め込み併せて実施予定であり、現在、文部科学省の実施の案内を待ちつつ、例年通り秋頃の実施に向け準備を進めております。各学部の皆様には、今年度もご協力の程、宜しく申し上げます。

また、昨年度（2023年度）の学生調査の分析結果が纏まり、6月下旬に各機構・各センター・各学部にフィードバックするとともに7月17日に本学ホームページに掲載致しました。

- ・大阪医科薬科大学 学生調査
https://www.ompu.ac.jp/campuslife/common/ompu_survey.html



編集後記

「IRだより」第12号は、第1面では、「第4回医療系大学のための教学IRセミナー開催決定」、「教育年報キックオフミーティング開催」、第2面では、「骨太の方針」「学生調査」についてお届けしました。

次号第13号は10月のお届けを予定しております。

IRだより 2024年7月号（第12号）

発行年月日：2024年7月1日
発行者：大阪医科薬科大学
編集：大阪医科薬科大学IR室